

設立趣意書

2002年4月1日に国立保健医療科学院(以下「科学院」という。)が、旧国立公衆衛生院、旧国立医療・病院管理研究所及び国立感染症研究所の口腔科学部を統合して、保健医療事業又は生活衛生、或いは社会福祉事業に関係する自治体職員等の要請及び訓練、並びにこれらに関する調査、研究を行う機関として、埼玉県和光市に新たに設置されて以来、早や4年余りが経過する。

この間、研修修了生の数は年々増加の一途をたどり、現在、年間四千名を超えるまでに至っている。60以上の各研修コースにおいては、社会的要請に応えるため研修プログラムの見直しや研修内容の充実を図っているが、言うまでもなく保健医療事業又は生活衛生、或いは社会福祉事業に携わる高度専門技術者の養成は、科学院における研修のみではなく、科学院における研修受講を契機として、自ら生涯学習を実践する修了生を輩出することが重要である。高齢化が急速に進行し、人口減少時代を迎えている我が国において、科学院の社会的使命も更に一層高まっている。

そこで、科学院(旧国立公衆衛生院及び旧国立医療・病院管理研究所も含む)の研修修了生の誰もが入会でき、修了生同士が懇親を深め、また職員とも交流しながら、生涯学習を強力に支援する場として、研修修了生及び職員からなる一体的な同窓会の設立が求められる。また、将来的には、保健医療科学に関する研究発表会の開催も期待される。よって、ここに、会員相互の交流と連携及び親睦を図り、科学院の発展と社会への貢献を寄与することを目的として、国立保健医療科学院同窓会を設立するものとする。

2007年3月24日

発起人一同